

第 14 回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長 若田部 昌澄	(日本銀行副総裁)
審査員 佐藤 義雄	(経済同友会副代表幹事、 住友生命保険相互会社取締役会長 代表執行役)
橘・フクシマ・咲江	(G&S Global Advisors Inc. 代表取締役社長)
鈴木 人司	(日本銀行政策委員会審議委員)
片岡 剛士	(日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、プレゼンテーションお疲れ様でした。

様々な問題点や課題を把握した上で、若い柔軟な発想で提言していただきました。また、統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自身の抱いた問題を解決しており、具体的で実現可能性を感じさせるものでした。

本日のプレゼンテーションも、様々な工夫がこらされていました。さらに、審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えを堂々と提示し、さらに審査員と議論を深めていました。そうした若い皆さんの姿は大変頼もしく、また嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べたいと思います。

【最優秀賞】

東京経済大学

所得控除連動型消費税免税マイナス金利デビットカード（免税カード）のすすめ

東京経済大学チームは、消費活性化を企図したデビットカード制度を提案されました。

具体的には、決済専用・引出に制約を設けたデビットカードを用いた制度であり、実質的にはプリペイドカードと同じ機能です。このカードを用いた決済について消費税が免税となります。一方で、長期保有残高に対しては、残高が割り引かれる仕組みとなっています。これらにより、消費拡大効果の最大化を図っている点が大きな特徴となっています。また、過度の免税を回避するために、カードへの預入額に上限を設けている点も評価できます。発想が独創的なことに加え、プレゼンテーションも的確かつ明確で、説得力がありました。

なお、①預入上限総額の再算定、それに伴う免税総額や必要財源の再試算、②限界消費性向の再試算、それに伴う政策効果の再確認、③年金生活者等所得控除を受けない層への対応、④当制度の実行期間を検討し、実効性を高めていくことが期待されます。

【優秀賞】

函館大学

未来の自分に投資しよう

—I-iif で金融学習・資産運用—

函館大学チームは、金融リテラシー向上と奨学金返済問題の解消を企図した「金融学習＋資産運用」の2段階プログラムを提案されました。近年、当グランプリにも、関連テーマで多くの応募がございます。

具体的な提案の内容は、第1段階の「金融学習編」で基本的な知識を身につけ、テストに合格すると第2段階の「実践編」に進むことができます。「実践編」では、元本10万円と自己資金を運用し、大学進学資金を賄います。奨学金制度を正しく理解し、返済計画を立てるために必要な金融リテラシーを身につけることにより、スムーズな奨学金返済が実現するほか、 unnecessary 借入を減らすなどマクロの奨学金削減効果も視野に入れている点が評価できます。また、学校の授業に頼らず、e-learning で自主的に学習できる点も評価できます。

なお、①アチーブメントテスト受験の際の不正防止などの透明性確保や、②大学進学資金に対する元本額の充分性、③世帯収入等に応じた弾力的な元本額の設定、④当制度

の大学進学資金以外への活用等について検討し、当プログラムの実現可能性・汎用性が高まるようブラッシュアップすることが望まれます。

【優秀賞】

麗澤大学

I WALK

～歩いて始める資産運用～

麗澤大学チームは、「投資のきっかけ作り」を企図した「歩いた歩数に応じて獲得するポイントを用いて株式投資ができる仕組み」を提案されました。

この提言は、①利用者側の手続きがシンプルであり投資への参入障壁が低いことや、②バージョンアップ計画として「ポイントを用いた投資」だけでなく「課金による投資」により、さらなる投資機会を提供している点が評価できます。また、③歩くことによる健康増進効果も評価できます。

なお、①提携企業に対するインセンティブのあり方、②証券会社が提供する具体的なサービス内容や、ポイント利用者の投資対象、③ポイント付与対象を若者以外に拡張した場合の制度設計などを検討し、実効性を高めていただくことを期待します。

【敢闘賞】

東京大学

情報銀行×地銀

～地域情報の利活用が紡ぐ地方創生～

東京大学チームは、「地域銀行の収益向上」や「地域密着型金融の機能強化」を企図した情報銀行の設立を提案されました。情報銀行が「電子地域通貨」を通じて収集したデータを地域銀行が分析し、コンサルティングや融資先へのアドバイス等に活用するビジネスモデルとなっています。

この提言は、地域銀行の置かれている収益状況を把握し、マクロでの収益向上策を提案している点が評価できます。また、地域密着型金融の実現に向けた各地域銀行・各自

治体の具体的な取り組みを把握・評価している点も評価できます。また、審査員からの質問に対する回答も的確でありました。

なお、提案の実効性が高まるよう、①「電子地域通貨」の手数料設定や運用コスト、②各地域に分散立地された情報銀行の運用効率性・競合可能性、③収集データの種類・量やその収益化の方法、④大手プラットフォーム企業等との競合に対する考え方といった点について検討を行うことが望まれます。

【敢闘賞】

日本大学

高齢者をターゲットとした郊外型コンパクトシティ

日本大学チームは、①郊外の空き家活用、②高齢者の集中居住による医療・介護サービスの充実を企図した「高齢者向け郊外型コンパクトシティ」を提案されました。

この提言は、空き家問題と医療・介護サービスの質的向上という2つの問題を同時に解決すべく、ヒアリング・実態調査に基づき、具体的な施策を提案している点が評価できます。また、資金面でも、公的資金のみに頼らず、住居の賃貸での運用・ヘルスケアリートの導入などを提案している点も評価できます。

なお、①医療・介護サービス提供者を「市街地から郊外へ」誘致する具体的施策、②街づくりに必要な商業施設等の誘致方法、③高齢者が住みたくなるような魅力的な街づくり、④運営主体や投資家の採算性について検討を進めることを期待します。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の方々が、身近な生活や大学での勉学をきっかけに健全な問題意識を養い、自ら主体的に考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることを通じて、金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上